信頼され選ばれる

医療人になるための礎づくり

北海道厚生農業協同組合連合会

帯広厚生病院

Message from junior Residents

2024

OBIHIRO KOSEI HOSPITAL

研修医よりメッセージ

■当院での臨床研修の魅力について

初期研修医 2 年目の和田侑也と申します。初めにお伝えしますが私は当院で初期臨床研修を行うことができて良かったと心から感じています。当院の初期研修の魅力を 2 つ紹介します。

1 つ目は当院が十勝医療圏唯一の 3 次医療機関として市中病院ながら医療が完結しているところです。軽症 / 重症、common/rare の疾患全て当院のみで経験することができます。また全ての診療科が揃っているので、複数の診療科が関わる症例でも当院のみで対応が可能であり最後まで診療に携わることができます。多様な症例を時間的な厚みを持って診療することで多くのことが学ぶことができます。

2 つ目は各学年 14 人の研修医の存在です。全国から志の異なる研修医が集まり、取り合い切れないほど豊富な症例のもとで、切磋琢磨しながら研修をしています。同じスタートラインに立って研修を始めた同期は苦楽を共にする上で心の支えになりますし、常に刺激を与え合い高めあう存在です。先輩からはよく教わり、後輩にはよく教えることで互いに学び合うことができますし、その土壌が当院には根付いています。

冬の寒さは厳しいですが「十勝晴れ」という言葉の通り晴れ渡った日の多い帯広は住んでみたらきっと好きになると思います。研修医一同当院でお待ちしております。

■帯広で医師生活をスタートしませんか

こんにちは。初期臨床研修医 1 年目の竹内尚樹と申します。私自身まだ働き始めて日が浅いのですが、より学生の視線に近いところからお話ししたいと思います。

みなさんが初期研修に求めるものはなんでしょうか。病院の立地、経験できる手技、症例数、研修同期の人数、福利厚生…。ただでさえ多くの病院があるなかで、何を基準に決めればいいのか迷う人がほとんどではないでしょうか。

この冊子は、そんな方々の選択の一助になればと思い制作しました。それぞれ各診療科をローテした研修医が記載しているので、研修の内容や雰囲気が伝わってくるかと思います。

当院には、全てが揃っています。道内随一の設備、広大な医療圏から集まる多様な患者さん、指導熱心な上級医の先生方、様々な面で支えてくださるコメディカルの方々、頼りになる研修同期…。私自身、日々優秀な同期や先輩方に支えられて (なんとか）研修生活を送っています。

みなさんの将来には、たくさんの可能性があります。目指す診療科が決まっている方はもちろん、初期研修を通して決めたいという方、とりあえず 2 年間頑張ろうぜという方も当院で研修生活を送る中で自信をもって将来を見定めることができるようになるでしょう。

01

呼吸器内科

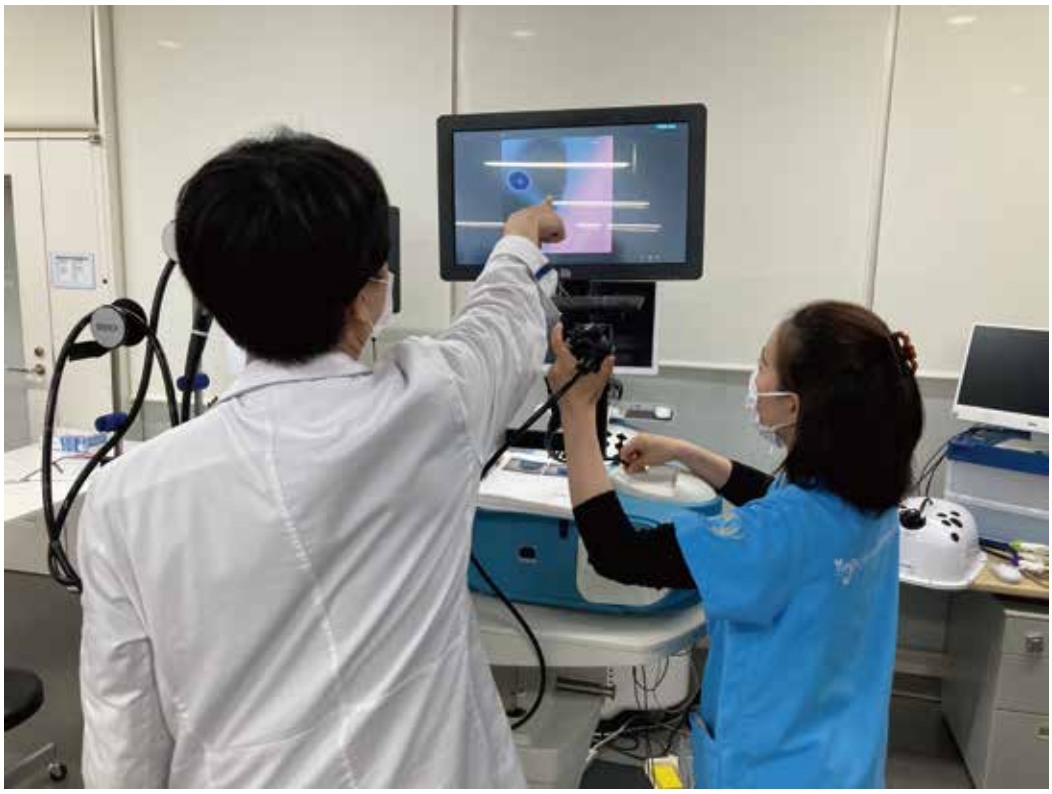
多様な呼吸器疾患にかかわることができます

呼吸器内科は 2 つのチームに分かれて診療しています。それぞれのチームに上級医の先生、専攻医の先生がおり、研修医もチームの一員として主に病棟業務を担当します。2 つのチーム合わせて 40〜60 人程度の患者さんが入院しており、肺癌、肺炎、COPD、気胸膿胸といった common disease に加えて、間質性肺炎、胸膜中皮腫、気管支拡張症など多くの様々な症例を経験できます。

がん診療はがんゲノム外来も開設されており、最新の 4 剤併用療法を含む最先端のがん診療を経験できます。

上級医に感染症専門医を持っている先生もおり、救急外来や他科の重症の肺炎などの診療も経験できます。また、一般的な抗菌薬の使い方なども学べます。経験できる手技としては、初日から胸腔穿刺をさせていただきました。1〜2 回の見学を経て胸腔ドレーン挿入・抜去も経験でき、2 ヶ月の研修の後半では何度も気管支鏡を握り検査を経験させていただきました。

病棟業務や手技は全て上級医の先生がどんなに基本的なことでも優しく教えてくださいます。



02

循環器内科

循環器疾患を診断する『基礎体力』をあなたに

循環器内科では、担当指導医と共に病棟の患者さんを担当します。当院の循環器内科は循環器疾患に加え腎臓疾患もカバーしており、担当する疾患は心筋梗塞、心不全、ネフローゼ症候群から高血圧、糖尿病、脂質異常症などの生活習慣病や慢性腎臓病などの慢性期疾患まで幅広いです。また心臓カテーテルやデバイス治療も積極的に行っており、多い時は１日７～８件ほど検査があります。

病棟での担当患者さんの内科的な管理に加え、心電図の読み方や心エコー検査の見方、降圧薬や利尿薬などの循環器薬剤の調整、透析患者の管理など幅広い分野について学ぶことができます。将来どの診療科に進むにせよ、高齢化社会において心不全や腎不全を合併している患者さんに出会わない医師はいないのではないでしょうか。

ほかにも救急外来で急性冠症候群、急性心不全、肺塞栓症など緊急性の高い疾患と出会うことも少なくなく、循環器内科の研修で疾患の検査や治療について深く理解していれば自信と根拠をもって診断することができるでしょう。この『嗅覚』と『基礎体力』は２年間の研修期間を終えた後も必ず役に立つことがあると思います。循環器内科志望の方に限らず、非常に有意義な研修期間を過ごすことが出来るでしょう。

03

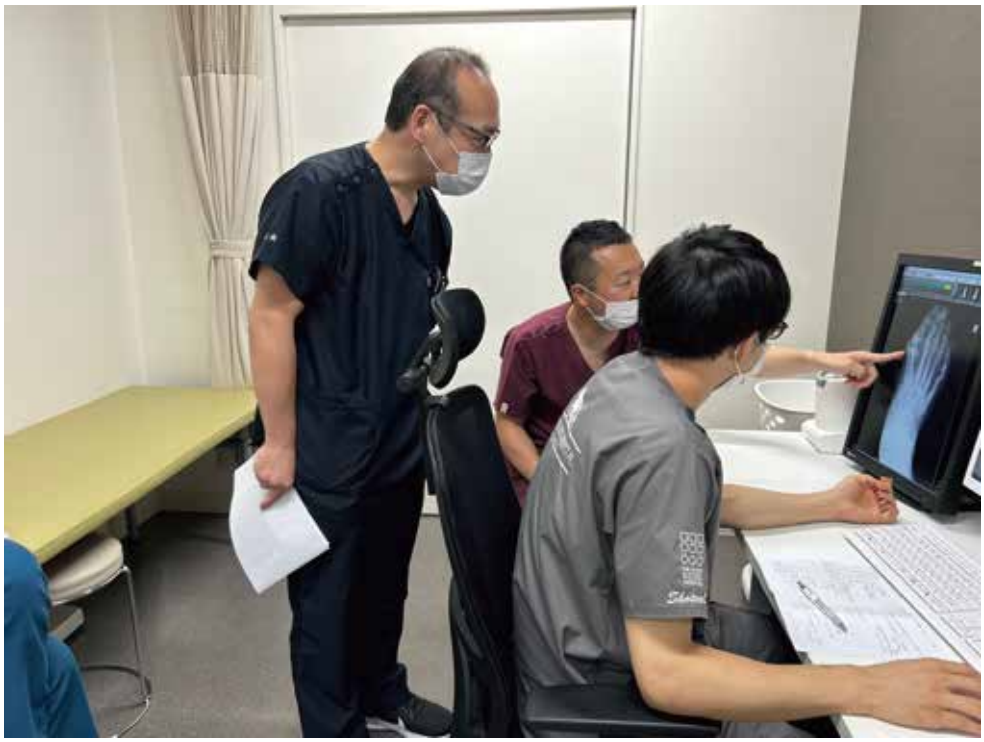
消化器内科

common disease から希少疾患まで学べます

消化器内科は、病棟は消化器グループか膠原病グループに分かれており、外来は内分泌・代謝疾患までカバーしています。研修では上級医とともに病棟業務や内視鏡検査の補助などを行い、腹水穿刺や CV 挿入、動脈血採血などの手技の機会も多くあります。

毎週火曜にはグループ合同のカンファレンスがあり、症例発表の機会が与えられます。そこでは先生方から研修医向けのレクチャーも受けることが出来ます。各グループの特徴として消化器グループでは希望者はシミュレーターを用いた内視鏡のトレーニングを行うことが出来ます。膠原病グループでは毎日の夕方のカンファレンスで入院患者さんの経過やその日に起こったトラブルを報告し、行った対応や今後の方針など、要点を的確に伝える力が養われます。両グループを通じて胆嚢炎、胆管炎、肺炎などの一般的な感染症も多く経験できますし消化器グループでは悪性腫瘍の終末期の患者さんの対応、膠原病グループでは ANCA 関連血管炎の肺胞出血に対する治療など専門性の高い疾患まで幅広い症例を経験できることが最大の魅力だと思います。

消化器疾患はどの診療科に進んでも遭遇するであろう疾患ですし救急外来の場でも消化器疾患の患者さんを多く見た経験は必ず活きてきます。ぜひ消化器内科をローテートしてみてください！



04

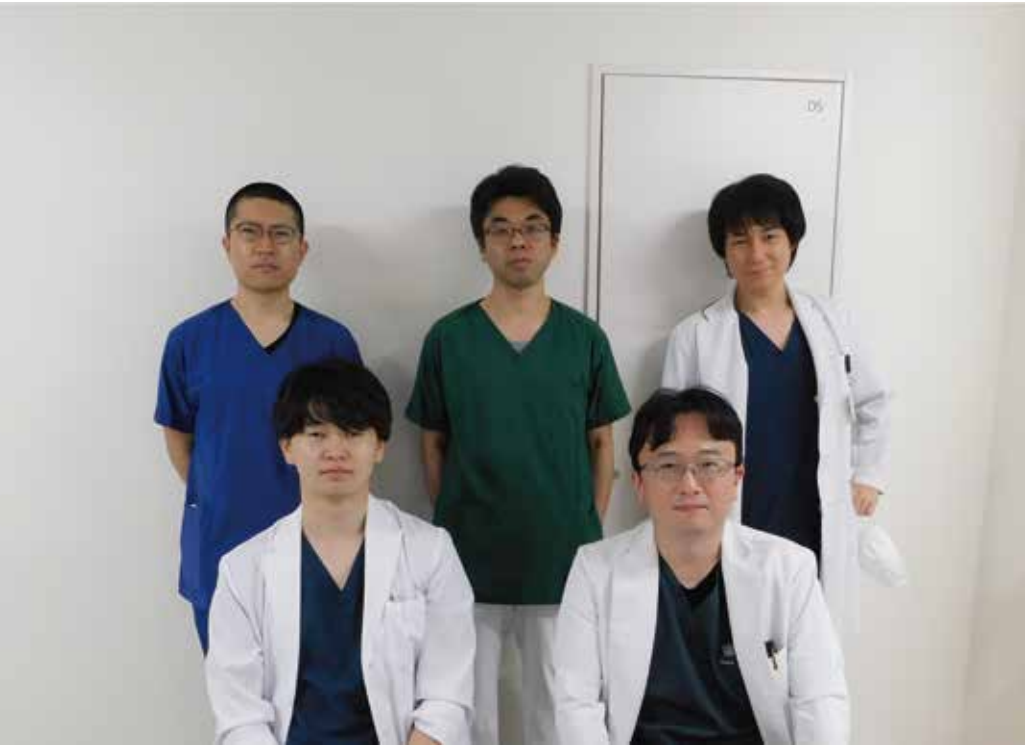
血液内科

血液内科ならではの知識や経験が得られます

血液内科の研修では白血病や悪性リンパ腫、多発性骨髄腫など様々な血液疾患を抱える患者さんの病棟管理を担当指導医と行います。十勝全域からの血液内科疾患症例が集まるため症例数が多く、発作性夜間ヘモグロビン尿症などの珍しい疾患も見ることができます。また、当院から大学病院に依頼するCAR-T療法や移植治療などを行う患者さんの治療前後の経過を見ることもできます。化学療法や骨髄検査などの治療や検査に加え、汎血球減少などの血液異常が生じた際の鑑別を考えたり、今後の血球の推移を予測したりなど、血液内科独特の知識や経験ができると思います。原病や治療の過程で汎血球減少している患者さんも多いため、発熱性好中球減少症や様々な感染症に直面したり、輸血対応など総合的な知識が必要となり非常に勉強になります。

また、病棟からのcallで入院患者さんの様々なトラブルの相談を受け、発熱や血圧管理、疼痛、不眠などの対応を行い、一般的なトラブルへの対応を学ぶことができます。

積極的治療を行わない方針となった患者さんの輸液や疼痛コントロールなどの管理もあり、血液内科では内科全般の病棟管理を学べるため、とても有意義な研修ができます。



05

脳神経内科

緻密な病棟管理から得られる成長

脳神経内科での研修はとても学びのある充実した研修でした！わたしが脳神経内科で研修できて良かったと思うことを二つお伝えします。

一つ目は、先生方が教育熱心で豊富な知識を教えてくださる他、質問しやすい雰囲気を作ってくださることです。初期研修は学ぶことだらけの毎日です。時には膨大な量の業務に追われてしまうこともありますが、焦らず一つ一つ課題を解消していくことが大切です。

二つ目は、脳神経内科ではさまざまな手技も経験することができることです。例えば、ルンバールや動脈採血、神経診察など、研修医が実際に患者さんに対して手技を行う機会が多いです。これにより、手技に対する自信をつけることができます。これらの手技はどの科に進むにしろ、必要になる手技だと思うので、早い段階で学ぶことができてよかったと感じています。

以上が脳神経内科で研修してよかったと感じる点です。優秀で経験豊富な上級医の先生方の指導、良い雰囲気の中での病棟業務、豊富な手技経験により、日々成長を感じることができました。

当院で初期研修することになりましたら、ぜひ選択してほしいと思います！

06

小児科

小児科研修の特徴

小児科の研修では、専攻医の先生方と共に患者さんの主治医となり、診察・検査・ルート確保などを行います。大人と違い、小児科の患者さんは自分の症状を訴えることができない事が多々あります。その中で、家族から詳細に話を聞き、丁寧な診察で異変がないかを探し、必要最小限な検査を考えて診断・治療へ結びつけていく過程を学ぶ事ができます。また、ルート確保や腰椎穿刺などの手技は研修医に任せていただけるため、小児科志望の研修医にとっては貴重な経験を多く積む事ができます。

毎朝のカンファレンスでは研修医が担当患児のプレゼンテーションをし、診療方針の確認をします。その際に指導医の先生方から様々な助言をいただけますが、ただ答えを教えるのではなく、研修医が自ら考え答えに辿り着けるような指導が特徴的です。

施設としては、十勝地方唯一の NICU があり、低体重出生児や重症感染症、先天性心疾患などの症例を経験する事ができます。これらの重症の患者を最初から研修医が担当することはありませんが、懸命に生きようとしている小さな命、全力で救おうとしている医療スタッフの姿を間近で見ることは、小児科志望の研修医はもちろん、そうでなくとも医師人生において貴重な経験となるはずです。

07

外科

忙しさの中に、充実した学びがあります

外科は消化器外科・呼吸器外科・乳腺外科の合同科です。主に悪性腫瘍や腸閉塞、胆嚢炎などの急性腹症、腹部・胸部外傷を診療しています。常時 30 人以上の入院患者を診療しており、２か月間で非常に多くの症例を経験できます。

研修医の主な業務として毎朝のカンファレンスでの担当患者のプレゼン、週１回の術前カンファレンスでのプレゼン、病棟回診時の処置、病棟業務、手術などです。また、週１回程度病棟管理の 1st　call を経験し、病棟トラブルに対応します。対応に苦慮する場合もありますが、常に上級医が 2nd に待機しており相談可能なので非常に心強いです。外科病棟には周術期だけではなく、悪性腫瘍への緩和目的の入院や手術歴がある方の内科的な入院もあります。手術や外科手技だけではなく、一般内科で行われるような病棟管理を学習し、実践する機会がたくさんあります。外科志望の研修医だけではなく、病棟管理や縫合手技などを学習したい研修医に貴重な機会となると思います。

08

脳神経外科

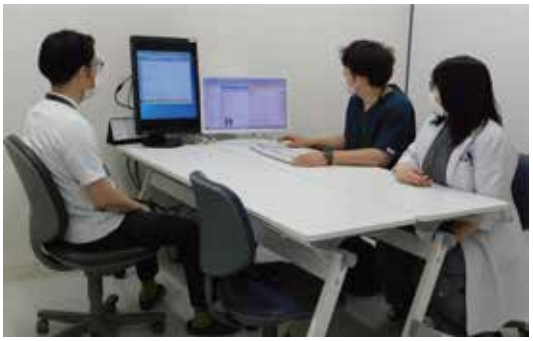
診断から治療後のフォローまで幅広い実力がつきます

当院はどの診療科も多様な症例が集まりますが、なかでも脳神経外科は脳梗塞や脳出血、くも膜下出血、脳挫傷、急性硬膜下血腫など多岐にわたる症例を経験することができます。研修では教科書に載っているような脳外科疾患はもちろん、外傷を契機とした頭蓋内出血など他科とオーバーラップする症例も多数経験することができます。脳神経外科を志す学生や研修医にとって症例で困ることはないはずです。

また、当院は t-PA 投与・血栓回収カテーテル術が実施可能な施設となっています。t-PA は発症後 4.5 時間以内に投与する必要があり、病院到着後 1 時間以内に t-PA 投与し始められる体制でいる必要があります。当科でこの限られた時間の中で、救急外来と緊密に連携し問診・診察・ECG・血液検査・MRI を実施、治療を行っています。t-PA 投与後 1 時間で症状が劇的に改善した患者さんを間のあたりにした時は、医師としてのやりがいを強く感じます。勿論、ローテ期間中は血腫除去術や腫瘍摘出術などの手術もたくさん見学でき、CV 挿入などの基本的な手技も多く経験できます。

また、病棟業務をする中で CT・MRI の画像診断能力を伸ばせます。上級医の先生方が point となる画像の読影の仕方を教えて下さると共に、何枚もの患者さんの画像を見ることで、神経所見と画像の評価についての力を向上させることができます。

脳外科病棟は総合診療科が病棟業務をサポートしており、よりきめ細かい全身管理をできるようになりたい脳外科志望の方だけでなく、総合診療科希望の方にもおすすめです。多くの脳卒中患者さんの全身管理をすることで、時に上手くコミュニケーションできない中で、何に気を付けて、どのように重要な症状を見極めていくかはどの教科書にも書かれることのない内容を学べる貴重な機会です。



09

心臓血管外科

研修医は基本的にすべての手術に助手として入ります

心臓血管外科では、月・水・金はシャント手術やステントグラフト挿入術を行っており、火・木は CABG や弁置換、大動脈置換術などの大きな手術を行っています。研修医は基本的にすべての手術に助手として入ります。心臓や大血管の手術は、最初のうちは見学が主になりますが、そのうち閉胸や閉腹の助手をやることになります。糸結びや皮膚縫合など、不意にやらせてもらえる機会が来るので、前もって練習してうまくできればどんどん任せてもらえるようになり、手術や術後管理に関しても色々なことを教えて頂けます。開胸手術の夜は上級医の先生方は ICU で患者さんを診ていますが、研修医は義務ではありません。普段はあまり見ることができない ICU での術後管理、特に循環管理についても学ぶ良い機会になります。周術期管理について学べるので、循環器内科志望や外科志望の人も研修しています。また、2 ヶ月回る研修医は 2 ヶ月目には shunt 手術を任されるようになります。練習は必要ですが、目標を持って練習できるので外科志望の人にとっては自然とやる気も出てきます。

10

整形外科

救急外来で確実な対応ができるようになります

整形外科では脊柱、上肢、下肢の各分野の専門医が揃っており、幅広い整形疾患を経験できます。また整形救急疾患を多く受け入れており、骨折や手指の切断、脊髄損傷などコモンな疾患から重症な疾患まで様々なことが学べます。

当院の救急外来では整形疾患の患者さんも多く来院されます。初期対応で困らないように、先生方から救急の場面での診察方法やシーネの当て方など指導して頂けます。病棟では、主治医の先生の持つ患者さんを一緒に診療します。整形特有の診察の仕方や画像の読み方を教えてもらいながら診断の方法を学ぶことができます。

手術も数多く行っており、助手として活躍できます。長期間研修すれば、先生方のサポートのもと大腿骨転子部骨折などの執刀をさせてもらえたりもします。希望者は外来を見学することができ、整形外科志望の人だけでなく将来の志望科に応じて柔軟に研修が可能です。

11

形成外科

基本的な外科手技に自信を持てるようになります

形成外科では、手術を中心に、外来、回診が主な業務内容となります。手術では、外来局所麻酔から入院全身麻酔のものまで、眼瞼下垂や皮膚腫瘍をはじめとした多種多様な疾患を取り扱っています。1 時間前後の手術が主となるため、毎日 3〜4 件の手術に助手として入る上、第一助手を任される機会も多いです。同じ手術を繰り返し見ることで、1〜2 ヶ月の短い期間でも、手術への理解が深まります。また、消毒や体位調整、覆布をかけたり、外科系であればどの科でも必要になるスキルも、数多くの手術に入ることで習得しやすいと感じました。

手術以外では、回診や外来業務を上級医と行うことで、ガーゼや軟膏の選択など、基本的な創部の管理について学ぶことができます。希望すれば、時間外に救急外来を受診した顔面外傷も、形成外科の上級医と一緒に処置することが可能です。日々の救急外来で対応を求められることが多い縫合などの創処置も、

上級医の丁寧な指導を受けることで、自信を持って行うことができるようになります。

全体的に研修医が積極的に参加できる環境があり、充実した期間を過ごせると思います。

12

産婦人科

研修医の希望に沿った充実した研修をすることができます

産婦人科は 4 週以上の研修が必修となっています。当院の産婦人科は 症例数が多く、年間約６５０件の分娩件数、約２００件の帝王切開、約４５０件の手術 (帝王切開除く) があります。産科では正常妊娠はもちろん、ハイリスク妊娠症例も数多く経験する機会があり、婦人科では、手術だけでなく化学療法や放射線療法も積極的に行っているため、産科婦人科を万遍なく勉強することができます。また当院は 3 次救急まで受け入れているため緊急性の高い疾患も経験できます。帝王切開や開腹手術、腹腔鏡、ロボット手術など様々な手術を行っております。最近は特にロボット手術に力を入れており、毎週月・火・木の週 3 回行っております。

基本的な業務は、病棟業務・手術参加です。患者さんのご協力があれば、経腟分娩や外来見学、エコー、内診などを 経験することも可能で、各研修医の希望に沿った充実した研修をすることができます。当院の産婦人科の先生方は指導熱心な方々ばかりで、検査から治療に至る過程、術中の動きに関する考え方を日々教えてくださりとても勉強になります。産婦人科を考えている方、そうでない方も有意義な研修になると思います。

13

皮膚科

先生方が教育熱心で、親切に教えてくれます

皮膚科では主に外来での診察見学・処置への参加を通して勉強することになります。当院は十勝地域の中心となる病院なので、外来では市中病院でも見かけるような頻度の高い疾患は一通りおさえることができますし、反対に珍しい症例を経験する機会も十分にあると思います。

急変があるような診療科と比べると、いくらか穏やかな雰囲気です。外来では指導の下、基本的な皮膚処置や真菌のＫＯＨ染色、皮膚生検の手技も経験することができます。午前は基本的に外来のみ、午後は病棟の回診や往診など、病棟管理を中心に行います。私自身は研修中に難治性の下腿潰瘍や、水疱性類天疱瘡、薬疹などの入院症例を経験しました。また午後は、他科から相談された患者の往診や、不定期でカンファレンスを行っております。

他科を志す人でも薬疹や蜂窩織炎等の感染症、ちょっとした湿疹など皮膚科疾患を診なければならない機会は多々あります。頻度の高い疾患、重症化する恐れのある疾患を知り、目の前の患者さんを皮膚科へ紹介すべきかどうか判断できるようになれば、自分にとっても患者さんにとっても良いことです。皮膚科志望でもそうでなくても、是非皮膚科での研修を検討してみてください！

14

泌尿器科

手術から内科管理、子どもから大人まで

当院の泌尿器科は、十勝圏の様々な泌尿器疾患を抱えている多くの患者様を受け入れています。そのため腎癌、膀胱癌などの悪性腫瘍から腎盂腎炎などの感染症、排尿障害、停留精巣などの小児疾患まで幅広い疾患を診て学ぶことが出来ます。

研修医は主に病棟管理、手術、検査を行っています。病棟では術後の患者様の処置や対応を行っており、チームで診ています。手術は月・水・金にロボット手術や腹腔鏡手術、火・木に経尿道的手術、結石砕石術などを行っています。手術室には da Vinci が 2 台導入されており、前立腺全摘、腎部分切除など多くの場面でロボット手術を見る事が出来ます。検査では尿管ステント交換や前立腺生検などあり、研修医も介助を行ったり、場合によっては検査をする機会もあります。

手術から病棟の患者様のことまで指導医に質問をしたら何でも優しく教えて頂けます。

そんな泌尿器科で研修をして、私は泌尿器科を専攻することを決めました。泌尿器科は必修ではありませんが、選択してもらえると非常に学びの多い充実した研修になると思います。

15

眼科

幅広い眼疾患を学べる環境

眼科の研修では、指導医とともに外来患者の診察や手術の助手などを行います。外来患者の診察では、上級医の丁寧な指導のもと、実際に細隙灯顕微鏡を用いて前眼部の診察や眼底の診察を行ったり、患者の診断や治療方針について検討を行います。また帯広厚生病院には多種多様な診療科があるため、循環器内科や呼吸器内科からのサルコイドーシスの精査や膠原病内科からの膠原病関連ぶどう膜炎の精査、小児科からの未熟児網膜症の評価、脳神経内科から重症筋無力症や眼球運動障害の評価、脳神経外科から視野検査の依頼、救急科から眼外傷の治療依頼、その他様々な診療科からの眼病変の精査など、多岐にわたる眼疾患について学ぶことができます。

手術については白内障手術や硝子体手術を中心として様々な手術が行われており、助手として手術場に入ることで、実際に顕微鏡を覗きながら繊細な眼科手術を体験することができます。相談次第で白内障手術練習も行わせていただけます。

視能訓練士や看護師をはじめ、様々なコメディカルと協力し、雰囲気の良い環境で勉強に取り組むことができる診療科です。

自由に楽しく学べる環境

耳鼻咽喉科・頭頸部外科は４人の先生がいて、特定の指導医はおらず、自分がやりたいことに応じてそれぞれの先生に教えてもらうという形になっています。担当患者も特に指定はされないため、全員で全患者さんを診ていきます。入院患者さんは大体 20 人前後です。先生方は皆さん優しく質問もしやすい雰囲気で、手術中も和気藹々としておりとても楽しいです。当科は頭頸部腫瘍、耳、鼻、口腔・咽頭に領域が分かれていますが、当院では頭頸部腫瘍専門の先生も全領域の手術を行っています。４人と人数は少ないですが、再建手術などの大きな手術も行っています。

1 日の流れとしては、朝 8 時半に毎朝医師のみのミニカンファレンスがあり、その日の担当の先生はその後回診、その他は手術、外来と分かれていきます。研修医は基本的に duty の仕事はないため、自分が興味あるところに行き、見学や指導を受けます。手術日は週 3 回となっています。基本的に研修内容は自分のやりたいことに合わせてくれます。外来や手術見学も必須ではないため、自分の目的にあわせて研修が可能です（例 : 小児科志望だから耳鼻科領域の小児科疾患を見たいため小児の外来、手術だけ見たいなど）。

外来は common disease 中心に様々な疾患を診て学ぶことができ、2 か月ローテーションした場合、鼓膜のチューブ挿入などの手術を実際に行わせて頂く機会もあります。回診の時は診察を、手術中は結紮や縫合など経験させていただけることも多いです。

17

精神科

精神科での研修

帯広厚生病院の精神科研修の良いところはまず、当院での研修が可能なところです。

精神科がない研修病院は、他病院で１か月研修を行っておりますが、それが思っている以上に面倒くさい！！その不便さがないことがまず当院のよいところです。

自院内で研修できるのもよいところですが、もちろん研修内容も充実しています。午前中は精神科外来で初診患者の予診をとります。現病歴、現在の症状や過去治療歴、生育歴などなど様々なことを質問しながら、患者さんの情報を集めていきます。情報を集めるほかにも、お話を聞く中で患者の緊張を解き、話しやすい体制を作ることも予診の大きな役割です。長い時には１時間ほど話を聞くこともあります。予診が終わった後は上級医に予診した内容、鑑別疾患をプレゼンした後、上級医の診察を見学します。実際に様々な精神疾患の患者を診ることで、精神疾患に対する理解を深めることができます。午後には病棟回診やカンファレンスに参加します。薬物過量内服など自殺企図の症例といった精神科救急の症例が見ることができるのも当院の魅力です。

指導医の先生も優しく、精神科について学ぶ環境が十分に整っています！ぜひ一度帯広に見学に来てください！！

18

麻酔科

多くの手技を身につけることができます

麻酔科は４週間の研修が必修となっています。主に手術前の診察、病歴や既往歴などの情報収集、麻酔の準備から挿管、術中管理など一症例の始めから最後までを上級医の指導のもとで担当します。手技はＶライン、Ａラインの確保から、挿管、脊髄くも膜下麻酔などその時の希望に応じて様々な手技を修練できます。

基本的に上級医とマンツーマンで手術に入るので、手技がうまくいかなかった時や、少しでも疑問に思ったことはすぐに聞けて適切なフィードバックをいただけます。１日に入る手術件数はまちまちですが、「～科の手術に入りたい」「挿管をたくさんしたい」といった希望に併せた手術に入らせて頂くことも可能です。

また当院では、麻酔科を中心としてICU管理を行なっており、２年目で選択した際、希望すればICU管理を学ぶことをも可能です。病院によっては全て各科で行わなければならないこともあります。そのため、麻酔科志望の人だけでなく他科で働くうえでも必要と考え２年目で麻酔科を選択する人も多いです。

19

救急科

知識だけでなく考え方を学べます

救急科は必修科として１年目で必ず８週間研修を行います。１年目は基本的に２人でローテーションし、隔週で一人が日勤、もう一人がナイトフロート（22:00 ～翌 8:30）の勤務をします。日勤では救急車でくる患者さんの診療を行います。救急科の先生の指導のもと、ファーストタッチから研修医が行い、検査、治療を行い転帰を決めていきます。救急科の先生方は、ただこなすだけの診療ではなく、自分で考えて動けるようなるように指導してくださり、とても学びの多い研修を行う事ができます。また NF の勤務は、22 時～翌日 8 時半までの勤務で、1 次当番日は、内科・外科上級医の先生２人と、2 次当番日は、救急科の先生 1 人と他研修医 1 人と救急外来の勤務を行います。日中と違い Walk in、救急車どちらの患者さんも来るため、件数も多く多岐にわたる症例を経験することができます。夜間・日中どちらも動脈採血や縫合、シーネ固定、中心静脈カテーテル挿入、A-line 挿入など様々な手技をやらせてもらえます。

２年目で救急科を選択する場合は、ICU の研修を行うこともできます。他科ではなかなか診療に関わることのない集中治療について、基礎的な部分からとても深い部分まで指導していただけます。

救急科は優しく教育熱心な先生方しかいないので、楽しく実りある研修になること間違いなしです！

20

放射線科

画像診断と IVR が学べます

放射線科はおおまかに読影・IVR、放射線治療の 2 つに分かれて業務が行われています。

毎年、半数以上の研修医が選択する人気の診療科です。読影・IVR の場合、日中に自分で読影し、レポートを作成します。読影する画像は自由に選べるので、自分の勉強したい分野、興味のある分野を読影することができます。夕方に上級医からフィードバックがあるので、一緒に画像を見ながらレポートの確認や疑問点の解決を行い、苦手な部分があれば読影する上でのコツも教えてもらえます。読影の基礎から発展まで様々な知識をマンツーマンで教えてもらえるため、どの診療科にいっても使える知識を培うことができます。

日中には上級医の先生方は毎日 IVR を行っているため、研修医は読影の合間をぬって見学・練習を行います。IVR は生検や TAE から CV ポート造設まで様々です。CV カテーテルや CV ポート造設の場合には、上級医の監督・指導の元、研修医が術者となって手技をすることができます。研修医の多くが読影・IVR をメインとして研修を行っていますが、癌などに対し放射線治療を併用することが多い科を希望している場合には、放射線治療を学ぶ研修医もいます。先生方はいつでも優しく、わからないことには丁寧に指導をしてくださいます。基礎知識から学びなおしたい人や深い知識を得たい人、どちらの方にも非常に充実した研修となること間違いありません。

21

総合診療科

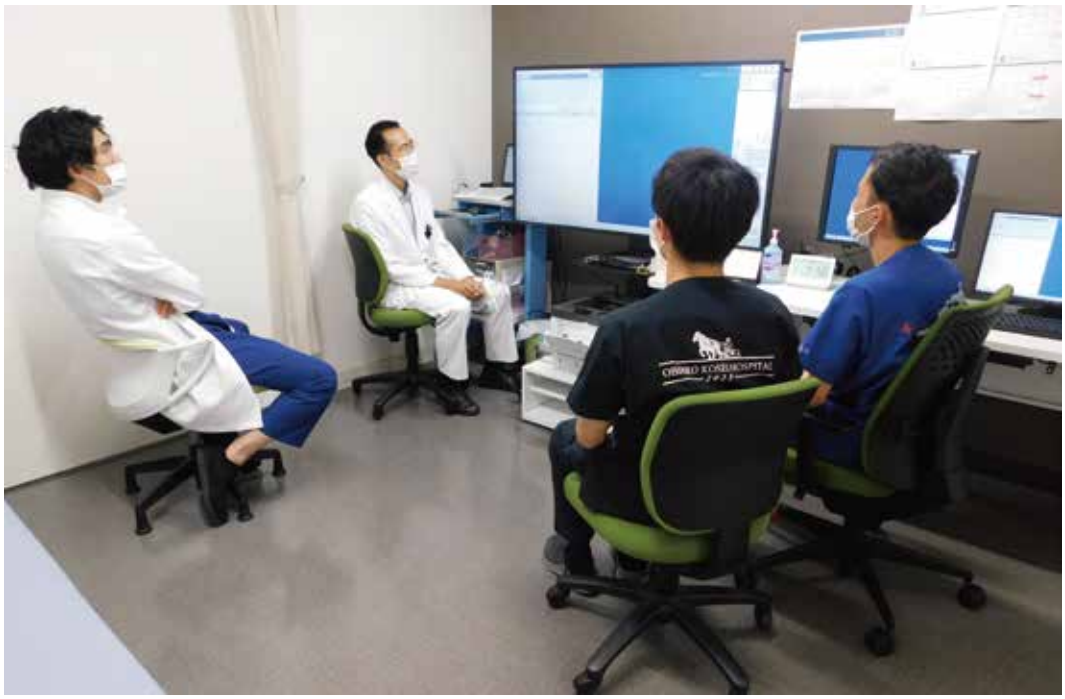
鑑別を考えるのに幅広い知識を自然と身に着けることができます

総合診療科は、当院では多くの研修医がローテーションに選択する診療科の１つです。院内の各科からコンサルトされることが多々あるため、鑑別を考えるのに幅広い知識を自然と身に着けることができます。上級医の先生はいつでも相談に乗ってくださり、一緒に入院患者の診療を行っていきます。

研修医が１度に担当する患者は２～３人と少なく、１人の患者に時間をかけて診療を行うことができます。病棟への指示出しや薬剤の調整、入院時や退院時の書類作成も行い、主治医として必要な業務を研修医のうちに経験することができます。

また、他科ではルーチンとして決まっているようなこと、例えば輸液を行うとしても、どの輸液を選択するのか、投与量・投与速度はどのくらいか、投与期間をどうするかなども自分で考え、先生に提案します。自分で調べ、診療に活かす練習をすることで、初めて出会う病態にも対応できる臨床能力を身につけることができます。

総合診療科で学んだ知識は他のどの科でも応用することができるため、総合診療科志望の方だけでなく、他の科を志望する方も一度は研修しておくべき科だと思います。



22

緩和支持治療科

難しいですが大変勉強になります

緩和ケア医療とは、重篤な病気に直面している患者とその家族の QOL を高めるための総合的な医療アプローチです。私たちの病院では、緩和支持治療科の病棟が病院の最上階に位置し、15 床の完全個室で構成されています。この静かで落ち着いた環境の中で、患者さんと同じ目線に立って話をする中で、身体的、精神的、社会的苦痛がないかどうかや、それらをどう工夫して取り除くことができるかを考えることは難しいながらも非常に勉強になります。

緩和ケアの目的は、患者さんが最期まで自分らしく過ごせるようにすることです。痛みの管理、呼吸困難の緩和、心理的支援など、多岐にわたるケアを提供します。また、患者さんやご家族の意向を尊重し、人生の最終段階を穏やかに迎えるための支援を行います。この姿勢や考え方は、将来どの診療科に進む上でも重要です。

帯広厚生病院の緩和支持治療科での研修は、がん診療に携わる医師だけでなく、全ての医師にとって有益な経験となります。患者さんの生活の質を高めるためのスキルを身につけることができるため、どの診療科を志望する方にもお勧めします。

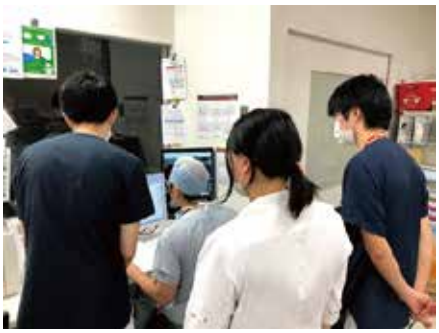
日々の積み重ねが、大きな力になります

研修医は平日のイブニング（17:00 ～ 22:00）に月 2 ～ 3 回、土日の日当直に月 2 ～ 3 回、1 年目・2 年目が一緒に救急当番の業務を行います。

ほぼすべての科がそろっているため様々な症候の患者が来院し、研修医が初期対応から方針決定までを主体的に行います。心筋梗塞・急性大動脈解離・脳梗塞・くも膜下出血・敗血症など緊急性の高い疾患から虫垂炎や肺炎など救急外来において common なものまで幅広く経験する機会があります。また、必ず救急科の先生など上級医がいる状態で当直を行うため、すぐに相談できる環境であり、フィードバックもあるため、そのときの対応について振り返ることができます。

当院は十勝管内唯一の 3 次医療機関であり、救急科や麻酔科の指導の下、BLS や ACLS を含めた救急対応を実践し学びます。CPA や重症外傷、十勝ならではの動物との接触外傷、農機具外傷なども経験することができます。

また、毎週「救急のつぼ」「ひよこの会」「シマエナガの会」といった勉強会が行われています。救急のつぼでは上級医からのレクチャーがあり、ひよこの会やシマエナガの会では研修医同士で教え合うことで幅広い知識を身に着けることができます。



ＪＡ北海道厚生連の理念

ＪＡ北海道厚生連は、組合員ならびに地域住民の皆様の生命と健康を守り、
生きがいのある地域づくりに貢献してまいります。

病院理念

最も信頼され選ばれる病院づくりを目指します。
地域の求める　医療連携を考えた病院づくり
わかりやすい　質の高い　患者さまの立場に配慮した医療
患者さまへの気配りのある環境づくり　温もりのある医療

基本方針

医療連携を深め、地域医療と救急医療の充実に努めます
職員教育・研修を推進し、医療水準の向上に努めます
患者さまが満足する療養環境と職員が誇れる職場環境を目指します

臨床研修理念

信頼され選ばれる医療人になるための礎づくり
私たちは、常に他職種共働・地域の特性・時代の要請に配慮し
住民の健康を守ることのできる医師を養成します。

患者さまの権利と責任

人権の尊重と、プライバシーが守られて治療をうける権利
自分の病気や治療内容について、充分な説明を受ける権利
治療を選択する権利と、同意できない診療を拒否する権利
病院の規則を守り、他の患者さまの治療を妨げない責任